

新しくなった水産研究所鳴門庁舎の紹介

環境増養殖担当 廣澤 晃

Key word ; 赤潮, 栄養塩, 海藻類, 貝毒, 技術開発, 漁場環境, 研究施設, 試験研究, 水産研究所, 藻類培養, 内水面漁業, 鳴門, 藻場造成, 養殖, ワカメ

はじめに

水産研究所鳴門庁舎は、徳島県水産試験場鳴門分場として昭和 40 年 3 月に養殖業の振興や栽培漁業の促進など、本県北部海域における沿岸漁業の振興を図るための試験研究機関として設置されました。その後、時代のニーズに添った様々な試験研究をおこなってきましたが、設置後約 40 年が経過し施設の老朽化が著しく試験研究業務に支障をきたしていたことから、鳴門市瀬戸町の現在地に施設が改築されました。平成 16 年度に本館と設備棟が、平成 17 年度には生物飼育棟や備品が整備され、平成 18 年 3 月に完成しました。新しくなった鳴門庁舎では、北部地域の漁業特性に応じて、ワカメ、ノリなどの海藻養殖と、赤潮・貝毒研究などの漁場環境保全対策を試験研究の柱として、施設の充実がはかられました。



写真1 水産研究所鳴門庁舎

施設の概要

新しくなった主な施設の概要についてご紹介したいと思います。藻類培養関連施設では、藻類培養棟、大型藻類培養室、プレハブ恒温室、人工気象器、マルチインキュベーターなどを備えています。藻類培養棟は、全面ガラス張りで 0.5 トン透明水槽を使ってワカメのタンク培養やスジアオノリの種網の作成などを行うことができます。大型藻類培養室では、太陽光に近い光源と空調設備による温度管理が可能で、3 トン FRP 水槽でワカメなどの大型藻類を周年を通じて室内での培養管理ができるようになりました。プレハブ恒温室では、室内は一定の温度に保たれ、ワカメなどの種の保存や種苗の大量培養が可能です。人工気象器やマルチインキュベーターでは、温度や照度の様々な組み合わせの下で、藻類の培養試験や生理研究を行うことができます。また、大型

藻類写真撮影装置として、ワカメなどの形態測定を効率的におこなえる撮影装置も装備しました。漁場環境保全研究関連の設備では、海中の窒素やリンなどの栄養塩を調べる最新の分析装置が配備されました。赤潮やノリ・ワカメの色落ちなどの原因となる栄養塩の分析を迅速におこない、タイムリーに情報の提供をおこなっています。その他、魚介藻類の飼育実験施設としては、UV 滅菌、温調が可能な循環濾過装置や、ヒラメなどの魚介類の飼育実験水槽として、2トン巡流水槽、0.5トンパンライト水槽などを配置しています。



写真 2 藻類培養棟



写真 3 大型藻類培養室



写真 4 プレハブ恒温室



写真 5 人工気象器



写真6 マルチインキュベーター



写真7 大型藻類写真撮影装置



写真8 栄養塩自動分析装置

最後に

改築後の鳴門庁舎では、新しく整備した研究施設を活用して、海藻類の養殖研究、藻場の造成技術の研究、赤潮や貝毒プランクトンの監視や内水面漁業に関する調査・研究に取り組んでいます。今後とも徳島県の水産業の発展のために一生懸命頑張っていきたいと思っていますので、新しい庁舎ともどもよろしくお願いします。